

東京2025デフリンピックに出場

バスケット日本代表 高山和也さん

JAPAN DEAF BASKETBALL



アルゼンチン戦に勝利し、両手を高く上げて喜び高山さん(前列右から2人目)

大学法律学科四年の高山和也さんが、十一月に開催された「東京2025デフリンピック」でバスケットボール男子の日本代表に選ばれ試合に出場した。

デフリンピックは英語で「耳が聞こえない」という意味の「デフ(Deaf)」とオリンピックを組み合わせた言葉で、国際的な「きこえない・きこえない人」のためのオリンピック。一九二四年のパリ大会以降四年ごとに開催され、日本での開催は今回が初めて。

大会を前にした十月十七日には、同じく大会に出場する佐々木琢磨さん(仙台大学職員、陸上男子)、佐藤奈奈さん(東北福祉大学二年、ボウリン)

二〇二五年度 保護者のための就職懇談会

十一月二十九日、五橋キャンパスで大学二年生と三年生の保護者を対象とした「保護者のための就職懇談会」が開催された。

懇談会は、学生の就職状況や企業の採用活動など、最新の就職環境を理解してもらうことを目的に実施している。全体会は工学部とそれ以外の学部に分けて行われ、就職キャリア支援部の田口修

部長が工学部向けに「工学部の進路状況について」、佐々木克典次長が工学部以外の学部向けに「就職状況と本学の支援について」と題して、それぞれの就職状況や大学が行っている支援について詳しく説

明した。全体会後の学科別の懇談会では、教員との面談の場や、内定者による体験談発表が行われるなど、学科ごとに趣向を凝らしたプログラムが実施された。また、昨年好評だった公務員試験の傾向や対策講座への質問に答える「公務員相談コーナー」を今年も設け、保護者の理解促進に繋げた。

工学部に在籍する学生の保護者は「就職活動のイメージをつかむことができた。先



のよう機会を通じて、学生の円滑な就職を支援するとともに、保護者との連携を強化していく。

イルミネーション点灯式

東北学院では毎年クリスマス前に各キャンパスや学校でイルミネーションを設置しており、今年度は十一月二十八日から十二月四日にかけて順次、点灯式が実施された。

このうち、榴ヶ岡高等学校は、今年度の大学泉キャンパス二号館への校舎移転に伴い、新しい校舎で初めての点灯式を迎えた。

五橋クリスマスマスの厳粛な礼拝で始まり、続くクリスマスコンサートでは、本学オルガニストの今井奈緒子教授と小野なおみ氏による演奏、志田

の気持ちも忘れない。選手としてプレーする傍らデフバスケの普及にも取り組んでおり、現在さまざまな活動に参加している。もともと障がいに対してコンプレックスを持っていたという高山さんは、デフバスケットに出場し、三ポイントシュートを決めるなどの活躍をみせた。世界ランキング十九位の日本代表は予選で二勝二敗の三位となり、得失点差で決勝トーナメント進出を逃したが、二戦目では格上アルゼンチン(同五位)を相手に八十一対七十九の僅差で勝利し

きたので、うれしいというよりホッとした気持ちが強かった」と当時の心境を振り返るほど練習に打ち込んだといい、代表に選ばれた後も東京での合宿に毎月参加したり個人で体育館を借りて練習に励み大会に臨んだ。

選手としての今後については「個人的にとっても悔いが残る大会だったので、これからは競技を続けて二年後の世界選手権や三年後のアジア大会、そして四年後のデフリンピックを目指す」と先を見据えつつ「応援してくれる方のためにも良い結果を残せるよう、努力し続けていきたい」と周囲への感謝

の気持ちも忘れない。選手としてプレーする傍らデフバスケの普及にも取り組んでおり、現在さまざまな活動に参加している。もともと障がいに対してコンプレックスを持っていたという高山さんは、デフバスケットに出場し、三ポイントシュートを決めるなどの活躍をみせた。世界ランキング十九位の日本代表は予選で二勝二敗の三位となり、得失点差で決勝トーナメント進出を逃したが、二戦目では格上アルゼンチン(同五位)を相手に八十一対七十九の僅差で勝利し

幼稚園 第39回 園児造形展「うみ」

東北学院幼稚園の造形展が、11月6日から9日の3日間にわたり開催されました。会場には、たくさんの園児のご家族が、わが子の作品を鑑賞に訪れました。

毎年恒例の陶芸制作は、色粘土を思い思いに使い、それぞれの個性豊かな世界観を表現した力作揃いで、保護者の方々は、子どもの豊かな想像力に感心し、一つひとつの作品をじっくりと見入る姿が見られました。

今年の共同制作のテーマは「うみ」です。各学年がこのテーマのもと絵画制作に取り組み、ホール全体にまるで本物の海のような世界が広がりました。

各学年の制作活動として、満3歳児は指スタンプや筆を使って、海や可愛い魚たちを表現しました。3歳児はさまざまな技法を使い、海の色と潮の流れを表現し、楽しそうに泳ぐ魚たちを立体的に貼り付けるなど工



夫が見られました。また、4歳児は図鑑を片手に深海魚や海藻などを、画用紙を丸めたり折ったりしながら丁寧に表現する共同制作に取り組みました。そして、5歳児は「うみの生き物になった私たち」をテーマに、下書きから形作り、うろこなどの細やかな部分までサインペンで色付けするなど、あこがれの生き物を存分に表現しました。

会場では、訪れた保護者の方々から自然と温かい笑みがこぼれ、芸術の秋を心ゆくまで楽しんでいました。

六軒丁祭開催

五橋キャンパスで開催された大学祭「五橋祭」(十月十四日)に続き、二十五日と二十六日に土樋キャンパスで「六軒丁祭」が開催された。

公園市民広場から土樋キャンパスまで仙台市中心部を練り歩いた。土樋キャンパス内に設けられた屋外ステージでは、さまざまなサークルによるパフォーマンスやバンド演奏などが行われ、会場は終始熱気に包

まれた。今年も同日にホームカミングデーが開催されたことで、学生だけでなく多くの同窓生が来場し、活気あふれる催しとなった。

